

## 上をむいてあるこう

校長 宮 崎 真 彰

これは、中学部側のスロープに貼られている中学部 1 年生の学年テーマです。

テーマの周りには、仲間たちの似顔絵と共に「やりぬく心」「しんじる心」「すなおな心」「つよい心」「たのしい心」「がんばる心」「やさしい心」「つたえる心」の言葉がハートの台紙に添えられました。ハートの先には、「なりたい自分になる」と書かれていましたので、1 年間の学びのまとめと進級に向けた心構えを促す授業があったのでしょう。「夢」「愛」「心」は、本校が 50 周年に設定したスローガンでもあります。それが脈々と後輩たちに受け継がれていることをうれしく思うとともに、「なりたい自分」という個を意識づける学びが進められてきたことを感じました。今、校内は卒業・進級にむけて、これまでの振り返りと、これからの道標の学習が盛んに展開されています。

高等部卒業生は、後輩にむけた檄を廊下に貼っています。「こうはいのみんな ありがとう いちにちを たいせつにしよう」「げんきいっぱい おおきいゆめを みつけよう」「なかまとともに みらいへ GO」。どのメッセージからも、後輩に対する励ましと温かな気持ちが伝わってきます。卒業の記念には、自分の思いを漢字一文字にしたためた色紙と、校歌を納めたオルゴールボックスを製作しました。上蓋を開けると、仲間と共に過ごした学校生活が一音一音になって、「♪われら友あり、ともに生きん」と奏でているように聴こえます。

中学部卒業生は、柿渋を使った皿とトレーの一閑張りを作りました。この手法は、伝統工芸になっており、芸術の森木工館の工芸員さんから習ったとのこと。地域の人材との結びつきや、我が国の伝統に触れる学習は、実用性もさることながら、学びの場を地域へと広げていく中学生ならではの取組です。

小学部卒業生は、6 年間で一番楽しかった思い出に関連する絵を描き、パネルにしました。絵の具や卵の殻で彩った思い出は、どれも生き生きと輝いています。もう一つ、小さい頃の私と今の私の写真を貼ったフォトフレームも作りました。幼き頃と今を見比べると、たくましく成長した姿が一目瞭然なのですが、どちらの表情からも幸せが伝わってきます。

卒業や進級は、別れを伴うことから一抹の寂しさや不安を拭えないところもありますが、学級、学年の仲間や教師と一緒にあって、今を確かめ、次のステップへと促す貴重な機会でもあります。どの教室でも、「よく頑張ったね」「上をむいてあるこう」と、背中を押す授業が繰り広げられているのが、3 月の学校の風景です。

平成 29 年度は 203 日間の学習でした。今年度の教育活動に、ご理解とご支援をいただきましたことに感謝を申し上げます。